

製品名: FGFR1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21605**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:91kD;Observed MW:145kD

抗原情報

遺伝子名	FGFR1 FGFR1;BFGFR;CEK;FGFBR;FLG;FLT2;HBGFR;Fibroblast growth factor receptor 1;FGFR-1;Basic
別名	fibroblast growth factor receptor 1;BFGFR;bFGF-R-1;Fms-like tyrosine kinase 2;FLT-2;N-sam;Proto-oncogene c-Fgr;CD antigen CD331
遺伝子 ID	2260.0
SwissProt ID	P11362
免疫原	ヒト FGFR1 の合成ペプチド

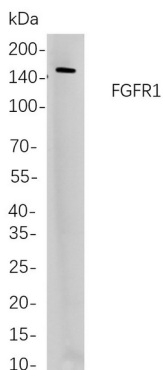
背景

細胞局在: 細胞膜; 1 回膜貫通型 I 型膜タンパク質。核。細胞質、細胞質ソル。細胞質小胞。リガンド結合後、受容体とリガンドはともに速やかに内部移行する。内部移行後に核に移行するか、小胞体またはゴルジ体から細胞質ソルへ、そしてそこから核へと移行する。この遺伝子によってコードされるタンパク質は線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR) ファミリーのメンバーであり、アミノ酸配列はメンバー間および進化を通じて高度に保存されている。FGFR ファミリーのメンバーは、リガンド親和性および組織分布においてそれぞれ異なる。全長の代表的なタンパク質は、3つの免疫グロブリン様ドメイン、単一の疎水性膜貫通セグメント、および細胞質チロシンキナーゼドメインからなる細胞外領域で構成されている。このタンパク質の細胞外部分は線維芽細胞増殖因子と相互作用し、下流シグナルのカスケードを開始させ、最終的には有糸分裂と分化に影響を与えます。この特定のファミリーメンバーは、酸性および塩基性線維芽細胞増殖因子の両方に結合し、四肢誘導に関与しています。この遺伝子の変異は、ファイファー症候群、ジャクソン・ワイス症候群、アントレー・ビクスラー症候群、骨芽球異形成症、および常染色体優性カルマン症候群 2 型と関連付けられています。この遺伝子に関連する染色体異常は、幹細胞性骨髄増殖性疾患および幹細胞性白血病リンパ腫症候群と関連付けられています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライスバリエントが報告されていますが、すべてのバリエントが完全に特徴付けられているわけではありません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



HEK293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。FGFR1 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。